

2020年8月新着情報



海外／国際機関で行われている／行われた興味深いイベント／取り組み

- **国連：高齢者のデジタル・インクルージョン：高齢者の包摂やウェルビーイングの推進に向けたデジタル技術の活用**
 - <https://www.un.org/development/desa/ageing/news/2020/07/digital-inclusion/>
 - <https://www.itu.int/net4/wsis/forum/2020/Agenda/Session/285>
 - 2020年8月11日に開催される世界情報社会サミットでは、高齢者の重要性を強調し、高齢者とICTに関する初の特別セッションを設けた。技術の進歩は社会の様々な側面に根付き、また更に包摂的で持続可能な開発に向けた機会づくりの可能性を秘めている。しかしICTへのアクセスが包摂的でない場合、不平等が悪化したり新たに発生したりしかねない。そして高齢者は多くの場合、ICTの可能性を十分享受できていないというエビデンスが存在する。このセッションでは、テクノロジー分野における高齢者のアクセスや包摂について取り上げ、主な問題やその原因、影響、改善策等を議論する。



海外での興味深い取り組み・ニュース

- **【コロナ関連】先進6か国：コロナ・パンデミックにおける孤独や社会的孤立のデータ収集協力者募集**
 - <https://aging.columbia.edu/news/help-us-gather-global-data-loneliness-and-social-isolation-during-covid-19>
 - Columbia Aging Center(訳注：ILC-USAとは関係ないのでしょうか?)と6か国(米国、カナダ、アイルランド、ニュージーランド、英国およびオランダ)の研究者たちは、コロナ・パンデミックへ人々がどのように対処しているのか、について国際調査を行っている。この調査では、コロナ前とコロナ禍における暮らし(例：直面した主な課題、対処方法等)についてカバーしている。物理的な距離の確保や移動の制限はコロナ対策の一環であり、人々はその結果、仕事・家族・社会での生活を変えなければならなくなった。コロナによる様々な制限で、孤独や社会的孤立を経験している人の数は、これまでにならぬほど多いと考えられる。この無記名オンライン調査は18歳以上の人を対象に行われ、基本属性、健康、保健行動、孤独、孤立およびコロナを巡る経験について質問を行っている。調査は上記ページから複数の言語で回答可能。
- **欧州：2100年までの人口動向—世界人口デーを記念して**
 - https://ec.europa.eu/eurostat/web/products-eurostat-news/-/EDN-20200711-1?inheritRedirect=true&redirect=%2Feurostat%2Fnews%2Fwhats-new%3Fp_id%3D101_INSTANCE_AJ2so9

<https://ec.europa.eu/eurostat/web/products-eurostat-news/-/DDN-20200713-1?inheritRedirect=true&redirect=%2Feurostat%2Fnews%2Fwhats-new>

- Eurostat が発表した最新の人口予測によると、EU 諸国の人口は、2019 年から 2100 年までにはほぼ 7% (3,100 万人) 減少すると見込まれる。今後しばらくは増加を続けて、2026 年に 4 億 4,900 万でピークを迎えた後、徐々に減少すると見られる。この予測ではまた、EU 諸国の人口が全体として高齢化し続けると予測される。2019—2100 年に、年少者 (0—14 歳) の割合は 15% から 14% へと微減し、生産年齢人口の割合は 65% から 55% に減少すると見られる。他方、65 歳以上人口の割合は、20% から 31% に増加すると予測されるほか、80 歳以上人口は 6% から 15% へと 2 倍以上に増えると考えられる。その結果、年齢中央値も 43.7 歳から 48.8 歳に上昇すると見込まれる。上記ページでは、各国の人口ピラミッドおよび年齢層別人口データをインタラクティブな形で閲覧可能。

- **欧州: EU で老年人口指数が上昇**

- <https://ec.europa.eu/eurostat/web/products-eurostat-news/-/DDN-20200713-1?inheritRedirect=true&redirect=%2Feurostat%2Fnews%2Fwhats-new>
- Eurostat が発表した最新の人口予測によると、EU 諸国の人口は引き続き高齢化すると見られ、これは老年人口指数 (65 歳以上人口 / 生産年齢人口 (15—64 歳)) で示すことができる。EU の老年人口指数は、2019 年は 31% だったが、2100 年にはほぼ倍増して 57% になると見込まれる。つまり 65 歳以上の人 1 人に対して、生産年齢人口の数は 2 人に満たないということである。2100 年時点で特に高い老年人口指数が予測されているのはポーランド (63%)、イタリア、マルタ、フィンランド (ともに 62%) である。特に低いのは、キプロス (52%)、スウェーデン、チェコ (ともに 53%)、ドイツ、デンマーク、ベルギー (ともに 54%) である。

- **【コロナ関連】英国: トム・ムーア退役大尉、ナイト爵に: 医療スタッフ支援に寄付 43 億円集めた功績で**

- <https://www.bbc.com/news/uk-england-beds-bucks-herts-53442746>
- <https://www.bbc.com/japanese/53453741> (日本語記事)
- 英国で医療従事者などへの寄付金を募って有名となったトム・ムーア退役大尉 (100 歳) に 7 月 17 日、ナイトの爵位が与えられた。エリザベス女王 (94) にとっては、3 月に新型コロナウイルス流行に伴う自主隔離を始めてから初めての公務となった。当時 99 歳のムーア大尉は 4 月初め、新型コロナウイルス対策の最前線で働く人たちを支援するため、1000 ポンドを募るキャンペーンを開始。4 月 30 日の 100 歳の誕生日までに自宅の庭を 100 往復すると宣言した。歩行器を使いながら庭を往復するその姿が目撃され、これまでに 3200 万ポンド (約 43 億円) が集まっている。「キャプテン・トム」の愛称で親しまれるようになった大尉は誕生日当日、名誉大佐の称号を与えられた。また、王立空軍による儀礼飛行が行われたほか、エリザベス女王やボリス・ジョンソン首相からお祝いのメ

ッセージが届いた。

- **【コロナ関連】英国：ケアホームへの家族や友人の訪問規制が緩和(7/22)**
 - <https://www.gov.uk/government/news/families-and-friends-to-be-reunited-with-loved-ones-in-care-homes-as-visits-restart>
 - 7月22日に保健省より、ケアホームへの訪問ガイドラインが発表された(訳注：詳細は後述(⑤))
ことにより、友人や家族がケアホーム入居者を訪問できるようになる。地域の保健局長は関連当局と共同で、ケアホーム訪問に関する決定プロセスを主導する。それぞれのケアホームや地域の背景状況に基づいて、徹底したリスクアセスメントを行うほか、マスクやソーシャルディスタンスの確保といった安全策が求められる。

- **【コロナ関連】米国：パンデミックの中、ナーシングホーム職員の研修要件をトランプ大統領チームが緩和**
 - <https://www.politico.com/news/2020/07/15/coronavirus-nursing-homes-361510>
 - <https://educate.ahcancal.org/products/temporary-nurse-aide>
 - ワシントン州のナーシングホームでコロナウィルスの感染が拡大した後、トランプ政権はナースエイド(訳注：主に身体介護を担当する職種)の研修要件を、パンデミックの期間に限定して既存の75時間から8時間の無料オンライン課程受講に緩和した。この研修修了者は「temporary nurse aide(臨時ナースエイド)」と呼ばれ、少なくとも19の州で導入されているが、導入している州の間でも要件は異なる(8時間の研修プラスαの要件を設ける州もあり)。介護業界では、人材不足で採用が困難なことから、研修要件の緩和を呼びかけていた。

- **【コロナ関連】米国：コロナ禍で施設入居中の夫に会うため、妻が施設の洗い場に就職**
 - <https://www.today.com/health/mary-daniel-works-dishwasher-see-husband-nursing-home-t186518>
 - Mary Daniel氏(57歳)は小さな会社を運営していたが、夫(66歳)は若年性アルツハイマーのため、昨年7月より施設生活だった。夫の入居以来、毎日のように施設へ通っていたMaryだったが、今年3月からはコロナウィルスのために訪問が出来なくなった。窓越しでの訪問を試みたものの、夫はただ泣くばかりで何が起きているか分からない様子だった。そこでMaryが思いついたのは、夫が暮らす施設でのボランティアや仕事である。施設担当者に問い合わせたところ、しばらくして「皿洗いの仕事ならある」との連絡があり、「いいわ！皿洗い、やりましょう」とMaryは快諾した。3か月を超えるブランクを経て再会した時、夫の目には涙が浮かび、Maryの名前を呼んだという。妻を認識しているサインだ。Maryは現在、1時間半のシフトを週に2度行い、夜の時間を以前のように夫と過ごしている。

- **米国：抗精神病薬に対するナーシングホーム入居者への保護がトランプ政権で弱体化**
 - <https://www.npr.org/2020/07/28/895308269/study-nursing-home-residents-not-protected-from-antipsychotic-drugs-under-trump>

- <https://www.documentcloud.org/documents/7007708-WMD-Nursing-Home-Report-Final.html> (報告書)
 - 米国では、30 万近くのナーシングホーム入居者が抗精神病薬を投与されているものの、その大半では薬物投与の理由となる精神疾患がないことが、下院歳入委員会への報告書で示された。しかしトランプ政権が始まって以降、薬物乱用の深刻なケースであっても、ナーシングホームが責任を問われるケースが激減した。この動向は、トランプ政権によるナーシングホームへの規制緩和と時期を同じくしており、緩和によって、悪質なケアに対してナーシングホームを訴えることが困難となった。罰金の評価方法が変更されたりした。
- **台湾:お客が捨てた服でクリーニング店の 80 代夫婦がおしゃれに変身!**
 - <https://edition.cnn.com/style/article/taiwan-laundromat-fashion/index.html>
 - <https://www.cosmopolitan.com/jp/trends/trend-news/a33467008/laundromat-in-taiwan-became-fashion-instagrammer/> (日本語記事)
 - <https://tabi-labo.com/296427/christine-wantshow-dry-cleaner> (日本語記事)
 - 83 歳の張萬吉(チャン・ワンジー)さんと 84 歳の許秀娥(シュー・シウウー)さんは、台中市でクリーニング店を営む夫婦。そんな 2 人がわずか 1 か月強で、世界が注目する大人気ファッションインスタグラマーとなり、フォロワー数は 57 万に達した。記事の写真で 2 人が着ているのは、客がお店に長年放置したまま取りに来なくなった服。2 人は 70 年にわたってクリーニング店を営んできたものの、最近では退屈している様子だった。それを見た孫の張瑞夫(チャン・ルイフー)さんが、この Instagram アカウントを立ち上げることを思いついたそう。瑞夫さんからこのアイデアを打診された萬吉さんは当初、「そんなの見たい人がいるのか?」と懐疑的だったが、現在はその反響の大きさに驚いている。また秀娥さんは、国をまたいで多くの人々がフォローしてくれていることに対し、「みんなが『いいね!』してくれているという話を聞いて、まるでたくさんの孫ができたような気分なの」と語る。
- **【コロナ関連】オーストラリア: COVID-19 のフィードバックを政府に届けよう(高齢者団体による調査参加呼びかけ)**
 - <https://nationalseniors.com.au/news/latest/survey-passing-on-your-covid-19-feedback-to-government>
 - 約 1 か月前、全国高齢者団体の National Seniors は調査を実施し、コロナ危機からの脱出方法や経済的回復について尋ねた。今回のオンライン調査では、脱出への道なりに障害物が出現した今、人々がどのような事に不安を感じているのかについて尋ねる。上記サイトからは実際の調査票を閲覧でき、日常生活に戻る際の不安、コロナのリスク管理に関する不安、経済・健康面での不安などをカバーしている。
- **【コロナ関連】オーストラリア:コロナ禍における高齢者のテクノロジー利用**
 - <https://www.gcma.net.au/covid19/2020/3/29/covid-19-uptake-of-technology>
 - <https://www.gcma.net.au/covid19/2020/3/29/covid-19-uptake-of-technology-34mnz>
 - Global Centre for Modern Ageing が行った調査で 60 歳以上の回答を分析した結果、多くの回答

者たちはパンデミックの制限下でテクノロジーを活用していた。主な調査結果は以下の通り。

- ◇ 23%: パンデミック前に使ったことのないテクノロジーを使用し始めた(例: iPad、スマホアプリ、ビデオ電話)。
- ◇ 34%: コロナ・パンデミック前と比較して、テクノロジーへの自信が高まった。
- ◇ 46%: コロナ前から既にテクノロジーに自信があったため、自信の度合いは高まらなかった。
- ◇ 65%: 週に1度以上ソーシャルメディアを利用した。
- ◇ 46%: COVID-19 安全アプリをダウンロードした。

● **【コロナ関連】**オーストラリア: Victorian Aged Care Response Centre (ヴィクトリア高齢者ケア対応センター)

- <https://www.health.gov.au/initiatives-and-programs/victorian-aged-care-response-centre>
- <https://www.health.gov.au/news/strong-start-in-the-national-response-to-victorian-aged-care-pandemic>
- オーストラリアでは、コロナの感染拡大が特にヴィクトリア州で深刻化しており、高齢者ケア施設に住む人々を守るために、一元化およびコーディネートされたアプローチが必要とされる。この対応センターは、高齢者ケアサービスでのコロナ対応で、資源をコーディネートおよび拡大するために立ち上げられた。センターでは、様々な連邦政府職員、州の政府職員、医療システムの専門職、医師などが協力して任務にあたるほか、数々の高齢者関連団体とも連携する。センターの主な業務は、コロナ対策の統合、高齢者ケア施設でのコロナ感染拡大への早期対応調整、コロナ感染者が出た高齢者ケア施設での感染拡大予防・質管理・家族対応、個人防護具(PPE)の確保などである。

● **【コロナ関連】**ニュージーランド: オークランド大学が高齢者のコロナ体験談を募集

- <http://www.superseniors.msd.govt.nz/webadmin/html/email/superseniors-1-august.html>
- <https://www.haveoursay.org/> (プロジェクト HP)
- オークランド大学では 70 歳以上の人を対象に、コロナ禍での生活について綴った手紙を募集している。この「Have Our Say(私たちの声を届けよう)」プロジェクトでは、高齢者が「話題の対象」になるだけでなく、実際に自らの声を聞いてもらえるようにすることを目指している。手紙には何を書いてもよいし、どの言語で書いてもかまわない。またデジタル写真やビデオを送ってもよい。すでに 160 通を超える手紙が届いており、コロナの中でも楽しんでいることや直面する課題などについて、興味深い内容が綴られている。手紙は郵便やメールで送ってもよいし、上記プロジェクト HP から送付可能。



海外／国際機関で最近発表された法律・規則・提言など

● 英国: 政府が医療・ケアビザ制度を立ち上げ(7/14)

- <https://www.gov.uk/government/news/government-launches-health-and-care-visa-to-ensure-uk-health-and-care-services-have-access-to-the-best-global-talent>
- 英国ではこの夏、新たな医療・ケアビザ制度を立ち上げることとなった。これにより、有資格の医療やケア専門職がより迅速にビザを得やすくなる。また Immigration Health Surcharge (IHS、外国人を対象とした健康保険付加料)についても、医療およびケア職員については恒久的に免除される。このビザ制度は、NHS サービスや社会的ケアに従事する優れた人材を、世界中から確保しやすくするためのものである。ビザの申請は 8 月に開始予定。この新たなビザは、IHS の免除も含めて、他の専門職より手数料が低額である。申請者はわずか3週間で英国での就労可否の決定連絡を受けることができる。

● **【コロナ関連】米国:コロナ再燃を受けて政府がナーシングホームへ 50 億ドル提供(7/23)**

- <https://apnews.com/93c2a6ca037a3c58c60605a7574d910c>
- ナーシングホームでのコロナ感染が再燃する中、トランプ大統領はウイルス対応に向けて施設へ 50 億ドル提供すると発表した。この動きは、民主党の大統領候補であるバイデン氏が家族介護者支援計画を発表した後に行われ、両者とも大統領選での高齢者票獲得に向けて取り組む様子が見え始める。この 50 億ドルは、たとえばナーシングホーム職員への継続した検査の促進や追加の研修・支援などに充てられる。この資金は、感染拡大が深刻化している地域のナーシングホームへ優先的に使われる予定。

● **【コロナ関連】ザンジバル:コロナでの経済困窮へ対応するため、政府が公的年金を 20%増額**

- <https://www.helpage.org/newsroom/latest-news/zanzibar-responds-to-covid19-economic-challenges-with-a-20-rise-to-their-universal-social-pension/>
- コロナ・パンデミックは全ての人々に影響を及ぼしているが、なかでも貧困・健康不良・差別に直面している人々への影響は大きい。多くの高齢者はこのような問題が当てはまり、ザンジバルでは高齢者が世帯主の場合、1/3 が国の貧困ラインを下回っている。これを受けて政府では、公的年金給付の月額 20%増加を決定した。ザンジバルは、2016 年に東アフリカで初めて高齢者への公的年金支給を開始した国であり、今回も政府が大きなステップを踏み出した。



海外／国際機関で最近発表された／近日発表される
報告書・ガイドブックなど

● **世界:Dementia prevention, intervention, and care: 2020 report of the Lancet Commission (認知症の予防・介入・ケア:Lancet 委員会 2020 年報告)**

- <https://www.alz.co.uk/news/lancet-launches-important-new-guidance-on-dementia-risk-reduction>
- [https://www.thelancet.com/pdfs/journals/lancet/PIIS0140-6736\(20\)30367-6.pdf](https://www.thelancet.com/pdfs/journals/lancet/PIIS0140-6736(20)30367-6.pdf) (全文)
- Lancet は、認知症の予防・介入・ケアに関する新たなガイダンスを発表した。この報告書は、2017

年版を更に更新したものである。2017 年報告では、認知症のリスク要因として低学歴、高血圧、聴覚障害、喫煙、肥満、鬱、運動不足、糖尿病、社会的コンタクトの欠如が挙げられていたが、今回は新たにアルコールの過剰摂取、頭部損傷、大気汚染が加えられた。これらの要因への対応により、世界で認知症を最大 40% 予防したり遅らせたりできる可能性がある。

- **英国: Ageing prison population (入所受刑者の高齢化) (庶民院立法委員会報告書、7/22)**
 - <https://committees.parliament.uk/committee/102/justice-committee/news/147600/prisons-challenges-of-an-ageing-inmate-population-and-covid19>
 - <https://committees.parliament.uk/publications/2149/documents/19996/default/> (全文)
 - 60 歳以上の入所受刑者は、2002 年には 1,511 人だったが 2020 年には 5,176 人へと激増している。増加の主な要因は、性的犯罪で起訴された男性の増加と、全体的な刑期の長期化である。高齢受刑者の多くは、特有の医療や社会的ケアニーズを抱えている。たとえば一般市民と比較して健康状態が悪く、60 歳以上の受刑者の 85% は何らかの持病がある。また社会的ケアについても、ニーズも十分満たされていないことが多いほか、戦略的な提供計画やコーディネーションがなされていない。物理的な環境面でも、多くの刑務所ではバリアフリーなどのアクセス対応が整備されていない。したがって立法委員会は司法省に対し、高齢受刑者への全国戦略を策定するよう呼び掛けている。

- **【コロナ関連】英国: Visiting care homes during coronavirus (コロナ禍におけるケアホーム訪問) (保健省ガイダンス、7/22 発表、7/31 更新)**
 - <https://www.gov.uk/government/publications/visiting-care-homes-during-coronavirus>
 - このガイダンスは、地域の保健局長やケア事業者など、ケアホーム訪問の計画に携わる者を対象としており、以下の点についてカバーしている。
 - ◇ 地域で訪問を調整したりリスクアセスメントを行ったりする際の原則
 - ◇ 訪問に関する方針を作成する際の事業者ガイダンス
 - ◇ 特定の入居者(個人、グループ)訪問に関する決定を行う際の事業者ガイダンス
 - ◇ 感染管理策
 - ◇ 訪問の方針や決定を家族等に伝える方法

- **【コロナ関連】英国: The experience of people approaching later life in lockdown: The impact of COVID-19 on 50-70-year olds in England (初老期の人々のロックダウン経験: イングランドの 50-70 歳にコロナが及ぼす影響) (Centre for Ageing Better 報告書 7/29)**
 - <https://www.ageing-better.org.uk/news/home-life-work-and-money-impact-lockdown-50-70s-revealed>
 - <https://www.ageing-better.org.uk/sites/default/files/2020-07/experience-of-people-approaching-later-life-lockdown.pdf> (全文)
 - 文献研究、量的・質的調査に基づいたこの報告書では、50 代と 60 代の人がパンデミックをどのように経験したのかを分析し、主に自宅・地域・健康・仕事という 4 項目に重点を置いた。調査の結

果、多くの人々がロックダウンによって不健康な生活となったり経済的な不安を抱えていることが分かった。しかし一方で、家族と時間を過ごせたり、仕事と生活のバランスがとりやすくなったり、自らのキャリアや将来を考えたりできたと考える人も多かった。ロックダウンが緩和されパンデミックがおさまっても、この年齢層の人々が高齢期を満喫できるようにしなければならない。

- **英国:雇用者の支援がなければ離職の恐れがある無償介護者は 470 万人**
 - <https://www.express.co.uk/news/uk/1315780/unpaid-carers-jobs-new-study>
 - <https://www.thephoenixgroup.com/~media/Files/P/Phoenix-Group-v3/Press%20releases/20728%20Carers%20II%20PR%20FINAL.pdf>
 - 470 万の働く介護者は、もし要介護者のニーズが今より増加したならば、雇用者の支援なしでは離職しなければならないと考えている、と Phoenix Group は発表した。英国では現在、無償介護者の 75%が就労しており、仕事と介護の役割のバランスに対するプレッシャーが大きいのしかかっている。雇用者による適切で柔軟な対応がなければ、働く介護者たちに残された選択肢は少ない。全体として英国の労働者のうち 3 割は、介護の役割が出来たり増えたりした場合、雇用者の支援がなければ離職しなければならないだろうと考えている。政府は現在、働く介護者の法定上の権利について協議しており、その中には 5 日間の介護休業(無給)が含まれる。

- **アイルランド:高齢者の安全なレクリエーションスポーツや身体活動の再開に関するガイドライン**
 - <https://ageandopportunity.ie/guidelines-on-the-return-to-recreational-sport-and-physical-activity-for-older-adults/>
 - <https://ageandopportunity.ie/wp-content/uploads/2020/07/Age-Opportunity-Guidance-Documents-2-1.pdf> (全文)
 - ロックダウンによって、多くのレクリエーションや運動プログラムが閉鎖された。ロックダウンの解除によってこれらのプログラムを再開していくにあたり、安全かつスムーズな対応が求められる。高齢者を対象としたこれらのプログラム再開を支援するために、Age & Opportunityは関係者たちを集めて知恵を絞り、再開ガイダンスを作成した。このガイダンスでは主に、以下の点をカバーしている。
 - ◇ レクリエーションスポーツや運動の再開で高齢者が直面する課題: 自信喪失、不安、国の公衆衛生情報に対する混乱、身体機能の低下など
 - ◇ これらの課題を克服するための解決策

- **オーストラリア:What Australians think of ageing and aged care(エイジングと高齢者ケアに関するオーストラリア人の考え)(王立委員会研究論文 4)**
 - <https://agedcare.royalcommission.gov.au/publications/research-paper-4-what-australians-think-ageing-and-aged-care>
 - https://agedcare.royalcommission.gov.au/sites/default/files/2020-07/research_paper_4_-_what_australians_think_of_ageing_and_aged_care.pdf (全文)
 - この研究では 1 万人以上に電話調査を行い、70 歳以上の高齢者に関する考えや現在の高齢者ケアシステム、自分が要介護となった時の希望について尋ねた。あらゆる年齢層の成人回答者

は、高齢者に対して非常に好意的であった。たとえば 90%以上の回答者は、高齢者が仕事や知識、経験、ボランティアなどで社会に貢献していると感じていた。高齢者ケアについては、大半の人が、その義務を社会が負うべきと感じていた。高齢者が自宅で自立生活を続けるのに必要な生活支援への支払いについて、最も大きな責任を負うべきなのは政府である、と半数近くが感じていた。全体として、施設高齢者ケアに対する回答者の考えは非常に否定的だった。しかし多くの人は、他の高齢者ケアシステムについての知識が乏しかった。高齢者ケアサービスについての情報をどのように探すか尋ねたところ、半数近くがまずネット検索を行うと回答しており、My Aged Care を挙げた人はわずか 9%だった。自分が要介護となった場合、高齢者の多くは自宅生活の継続を強く希望している。あらゆる種類の支援やケアが重要視される中、最も重要なサービスは何かと尋ねたところ、高齢者はまず清掃を挙げ、続いて身体介護(ADL)や医療サービスを挙げている。

● **オーストラリア: They look after you, you look after them: Community attitudes to ageing and aged care (彼らがあなたをケアし、あなたが彼らをケアする:エイジングと高齢者ケアに対する地域の意識) (王立委員会研究論文 5)**

- <https://agedcare.royalcommission.gov.au/publications/research-paper-5-they-look-after-you-you-look-after-them-community-attitudes-ageing-and-aged-care>
- https://agedcare.royalcommission.gov.au/sites/default/files/2020-07/they_look_after_you_you_look_after_them.pdf (全文)
- https://agedcare.royalcommission.gov.au/sites/default/files/2020-07/they_look_after_you_you_look_after_them_-_easy_read.pdf (簡易版)
- この調査では、18 歳以上の人を対象に 35 のフォーカスグループと 30 の詳細インタビューを行い、「高齢者に対する地域住民の意識」、「現在の高齢者ケアシステムに関する地域住民の理解と認識」、「自身の高齢期への計画・期待・懸念」について尋ねた。主な結果は以下の通り。
 - ◇ 年齢は数字ではなく、むしろ個人の姿勢や行動によって判断されると感じていた。
 - ◇ 大半の人は高齢者を、経済的・感情的・社会的な負担とは思っていなかった。
 - ◇ 自分が介護分野で仕事をしたり身近な人のケアに関わったりした経験がない限り、参加者は高齢者ケアシステムについて殆ど知識がなかった。
 - ◇ 高齢者ケアシステムについて情報を探したことのある人たちは、システムを調べたり利用したりするのが困難だと述べていた。
 - ◇ 施設は陰鬱で病室のような環境であり、また生活するのではなく死ぬ場所として捉えられていた。
 - ◇ 何らかの深刻な状況で対応が必要となるまで、大半の人たちは、施設でも在宅でも、要介護となる見通しについてほとんど考えていなかった。

● **オーストラリア: Australia's aged care system: assessing the views and preferences of the general public for quality of care and future funding (オーストラリアの高齢者ケアシステム: ケアの質と今後の財源確保に向けた市民の意見と希望に関する調査) (王立委員会研究論文 6)**

- <https://agedcare.royalcommission.gov.au/news-and-media/australians-strongly-support-funding-high-quality-aged-care>
 - https://agedcare.royalcommission.gov.au/sites/default/files/2020-07/research_paper_6_-_australias_aged_care_system_-_assessing_the_views_an_.pdf (全文)
 - 将来的に質の高い高齢者ケアサービスを保証するために財源を増やすことについて、オーストラリア人は強く支持していることが、プリンダース大学の新たな調査で示された。この調査は、現在高齢者ケアサービスを利用していない 1 万人の成人を対象に行われた。回答者の 90%近くは、高齢者ケアサービスへの政府資金を増やすべきであると感じていた。また 60%近くの人は、公共支出を高齢者ケアに再配分すべきであると感じており、平均してこれらの人々は、公共支出に対する高齢者ケアの比率を倍増させるべきと回答した。大半の回答者は、将来的に高齢者ケアサービスが必要となった場合、自己負担を支払う意思があった。また現在の所得税納税者の大半は、適切な高齢者ケアの財源確保に向けてより多くの税金を支払う意思があると回答した。これらの人々は平均して、満足のいく質の高齢者ケアを保証するために 1.4%、また質の高い高齢者ケアを実現するためにさらに 1.7% (つまり合計で 3.1%) 多くの所得税を支払う意思があった。満足のいく質の高齢者ケアで重要な要素は何か、と尋ねたところ、敬意や尊厳を大切にした対応、ケア職員の適切なスキルや研修、必要な健康・ウェルビーイングサービスを利用できること、という回答が得られた。
- **オーストラリア: The value of informal care in 2020 (インフォーマルケアの価値: 2020 年) (Carers Australia 報告書)**
 - <https://www.carersaustralia.com.au/media-centre/article/?id=replacement-value-of-unpaid-care-in-australia-rises-to-779-billion-per-year>
 - <https://www.carersaustralia.com.au/storage/final-value-of-informal-care-2020.pdf> (全文)
 - オーストラリアの無償ケアの価値を貨幣で換算すると、2020 年では年間 779 億ドルに上ると推計され、2015 年に行われた同様の調査時より 29% 上昇していることが、この報告書で確認された。オーストラリアでは 2020 年、家族や友人の介護者が 22 億時間の無償ケアを提供し、主介護者は平均して週に 35 時間以上を介護の役割に費やすと推計される。ただし、上記の分析はコロナ・パンデミック前に行われたものであり、コロナ禍での社会的孤立や有償ケアサービスの停止を受け、介護者たちはかつてないほど介護に時間を費やしている。
 - **【コロナ関連】ニューージーランド: Caring In Lockdown: Forgotten families during COVID-19 (ロックダウンでのケア: コロナで忘れられた家族たち) (Carers New Zealand 報告書)**
 - <http://carers.net.nz/information/covid-19-survey-report-caring-lockdown/>
 - <http://carers.net.nz/wp-content/uploads/2020/07/Final-Caring-In-Lockdown-Report-July-2020.pdf> (全文)
 - この報告書では 700 名近くの家族介護者を対象に、コロナ感染拡大が介護者の生活にもたらした影響について調査した結果をまとめている。回答者の多くは、これまでにないほど多くのケアを提供していただけてなく、経済的にも苦しく将来への不安も抱えており、コロナ前からの懸念や不安が

悪化した人も多かった。主な結果は以下の通り。

- ◇ コロナ感染拡大の中、64%の介護者が以前より多くのケアを提供していた。該当者のうち51%は、サービスが減らされたり閉鎖されたりしたことが増加の原因だった。
- ◇ パンデミックの中で介護者の50%では、感情面・モチベーション・見守りでの支援提供が増えていた。
- ◇ 介護者の76%は、支出が増えたと回答しており、64%は食糧での支出が増えていた。
- ◇ 介護者の25%は、長期的な経済状況について不安を感じていた。
- ◇ コロナによるロックダウンが働く介護者に及ぼした影響：18%は、介護の役割のために離職しなければならなかった。16%は、アラートレベルの規則によって、失業したか働けなかった。
- ◇ 介護者の66%は、自分が病気や他の理由でケアを提供できなくなった時に、要介護者がどうなるのか不安を感じていた。
- ◇ 介護者の37%は、圧倒されていると感じ、また燃えつきを心配していた。
- ◇ 介護者の1/3近くは、複数の人にケアを提供していた。
- ◇ 介護者の54%は、自身が疾病や障害を抱えていると感じていた。